

今日の子どもの育ちと学童保育の役割

～指導員の仕事と役割、心構え～

埼玉県学童保育指導員・河野伸枝

1, 親の思いと学童保育

- 働く親たちが生み出した「学童保育」
- 働く親をもつ子どもたちの「生活の場」
 - ・ さまざまな葛藤をランドセルに抱えて帰ってくることもある
 - ・ 家庭や学校での思いを引きずって帰ってくることもある
 - ・ 年齢も要求も願いもそれぞれに違いをもつ子どもたちが大勢で生活している
- ※ 違いを大事にしながらどの子にとっても安全で安心できる生活

2, 一人ひとりの子ども理解し、心を寄せる

- 子どもの言動の心根（願い）を聴きとどける
- 子ども同士の関わりを育てていねいな働きかけをする
- 子どもの生活を丸ごと（家庭、学校）での生活を知り、共に考えあっている関係をつくる
- 保育実践より ～攻撃と依存の繰り返しの中に見えてきた子どもの願い

3, 働きながら子育てを支える（親を支えることは、子どもの育ちをと切り離せない）

- 働きながらの子育て事情（モンスターペアレント？と言われる背景にあるもの）
 - ・ 働く親たちのきびしい労働実態・ワーキングプア、ダブルワーク
 - ・ 時間的、体力的、精神的に子どもとゆとりをもって関わるができない
 - ・ 親にかかる社会的な子育てへのプレッシャー
 - ・ 子育ての不安や焦り、苛立ちに心を寄せる
- 親たちの子育ての輪をつなぐ

4, 子どもたちの育ちを支えるものは

- 安心できる人間関係・つながり（親と、仲間と、周りの大人たちと、地域と）
- 生きている喜び……自分たちの存在が大事にされている実感
 - ※ 「かわいさは、人間の生命線」……かわいの中にも「希望」がある
- 「自立」は、一人で何でもできることではなく、人とのつながりながら社会にあること

5, 子どもの成長に影響を与えている仕事の責任と自覚を……

- ・ 人と関わる仕事に手っ取り早いマニュアルなどない
- ・ 学び続けること（自己研鑽）が求められる……